

BBLセミナー コメント資料

2021年2月24日

「激動する中東情勢—トルコのアプローチを手掛かりに—」
コメント資料

田村 亮平

(経済産業省通商政策局中東アフリカ課課長)



1. 面積：約78万平方キロ（日本の約2倍）
2. 首都：アンカラ
3. 人口：約8,315万人
4. GDP：7,608億ドル（1人当たり9,213ドル）
5. 経済成長率：1.5%

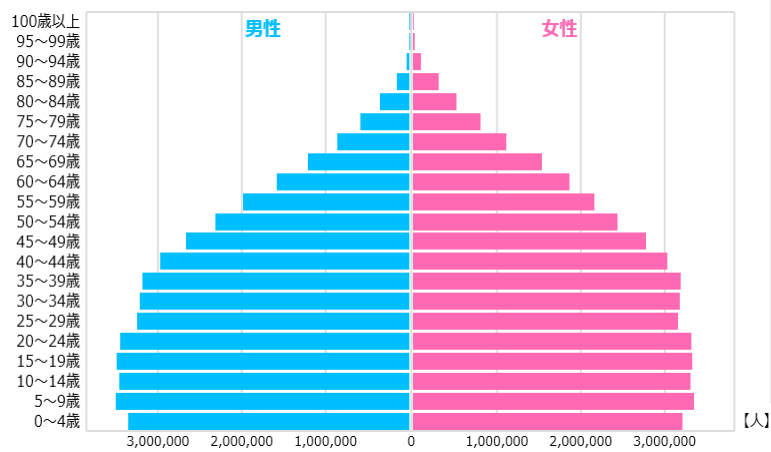


6. 貿易
輸出：1,715億ドル（自動車・部品、貴金属類、ニット衣類）
輸入：2,027億ドル（貴金属、化学製品、機械類）
7. 対日貿易・投資
輸出：5.0億ドル（自動車部品、魚、パスタ等）
輸入：36.5億ドル（自動車部品、蓄電池、エンジン等）
日本からの直接投資金額：3.2億ドル
8. 在留邦人数：1,817名
日系企業拠点数：261社
（外務省海外在留邦人数統計（2019年10月））
9. 政体：共和制（1923年共和国建国）
元首：エルドアン大統領、任期5年
2018年6月の選挙により議院内閣制から実権型大統領制へ移行。
10. 議会：一院制
（600議席、任期5年、拘束式比例代表制）
11. 政府：内閣は大統領の任命による
（行政権の全てが大統領に属す）。

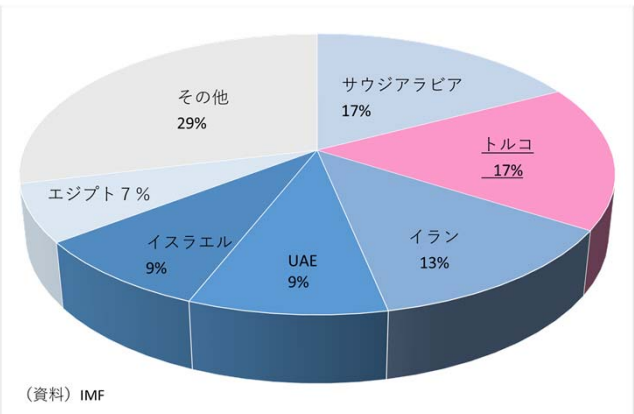
日トルコ経済関係 ① 有望な消費・インフラ市場

- ◆ トルコとの経済関係は、①有望な消費・インフラ市場、②中東地域最大の製造・輸出拠点、③周辺地域への戦略的パートナーの3点で重要。
- ◆ 8千万人超の人口、平均年齢32.0歳の若い人口構成、一人当たりGDP約1万ドルと内需に厚みがあり、自動車や観光など国際的な競争力を持つ産業もある。対外的には、EUとの関税同盟、地理的利便性といった長所もある。
- ◆ エルドアン政権16年の評価は、名目GDP及び一人当たりGDPをそれぞれ3倍にしたことなど経済成長に寄るところが大であるが、成長率は2017年の前年比7.5%増から、2019年は同1.5%と減速している。

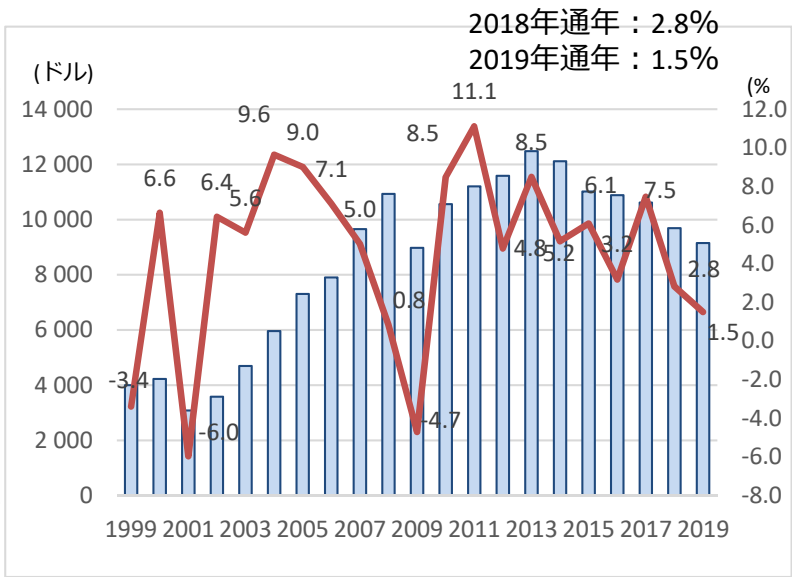
人口ピラミッド
(UN, World Population Prospects)
人口 (2019年) 8,315万人



中東・北アフリカ諸国のGCP割合
(2019年：GDP合計4兆570億ドル)

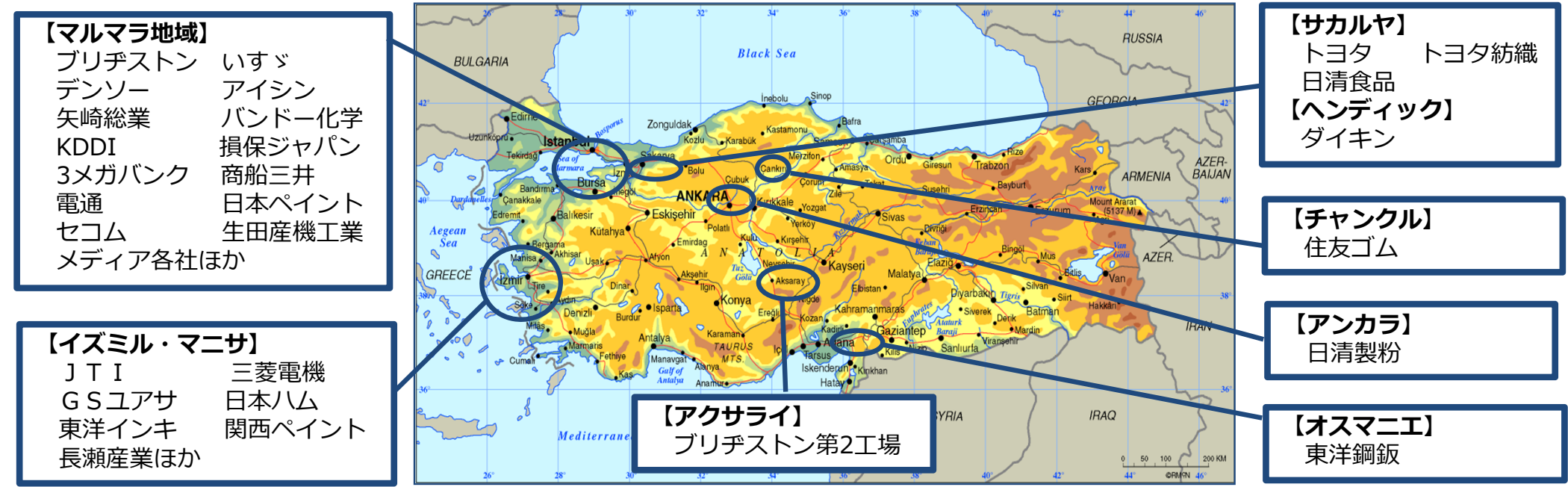


一人当たりGDP及び経済成長率 (統計庁)

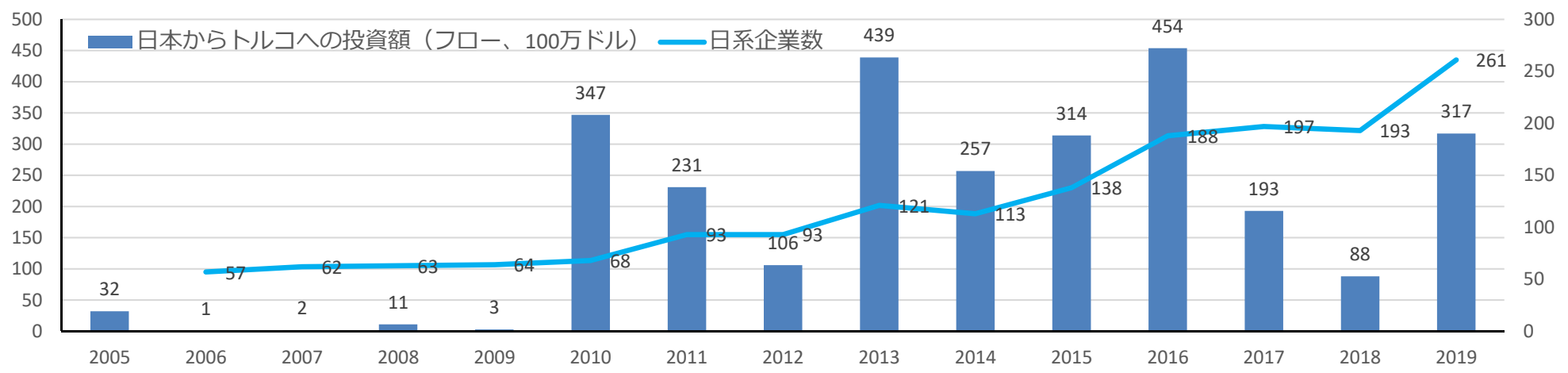


日トルコ経済関係 ② 中東地域最大の製造・輸出拠点

◆中東地域の中でも、製造業、サービス業はじめ様々な産業を有する。



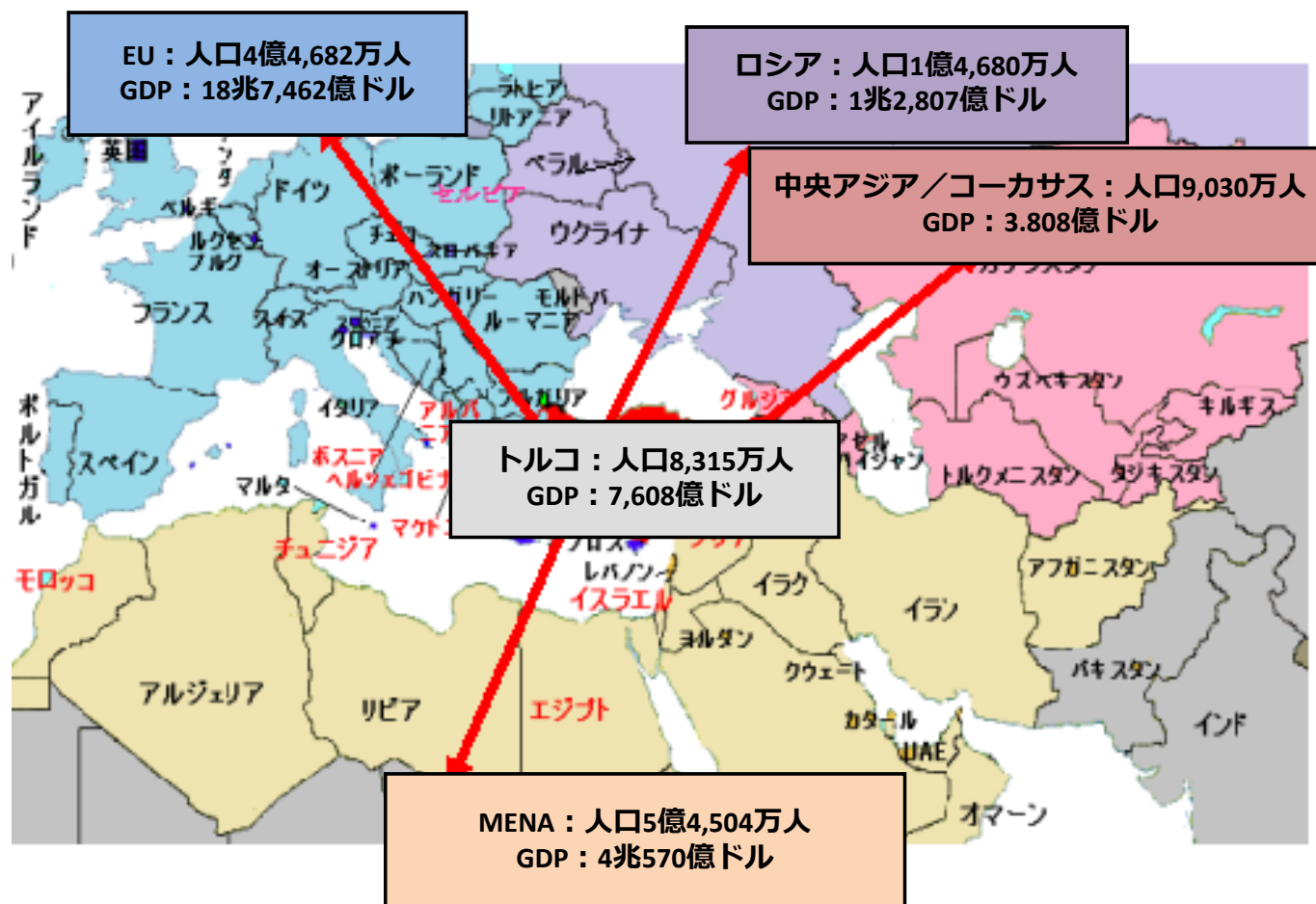
(参考) 日本からトルコへの直接投資及び日系進出企業数



(出所) トルコ中央銀行、外務省「海外在留邦人数調査統計」

日トルコ経済関係③ 周辺地域への戦略的パートナー

- ◆ 周辺に欧州、ロシア、中央アジア／コーカサス、MENA地域といった巨大市場が存在。トルコはEUと関税同盟を結んでいるほか、中央アジアはじめアフリカ地域や中東諸国にトルコ財閥はじめ多数の企業が進出。トルコ航空のハブ機能も存在。
- ◆ 既に多くの日本企業がトルコ企業と組み大型プロジェクトを手掛けている。



トルコはトラキアゆえにバルカン諸国であり、北の海岸線、黒海、エルズルム高原ゆえにコーカサス国家であり、ハトウランゆえにメソポタミア、中東国家であり、南の海岸とイスケンデルン湾ゆえに地中海国家である。

東欧、西アジア、バルカン、コーカサス、中東の国であると同時に、アフロユーラシア大陸の最重要海域に直接または間接的に介入しうる位置を有する。

トルコは、その「戦略的深み」を活かしオスマン帝国の旧領と新疆ウイグル自治区にまで広がる中央アジアのチュルク・イスラム世界を纏め上げ、東と西の文明架橋国家となって人類の未来に貢献することができるか（監訳後書）

（「文明の交差点の地政学」アフメト・ダウトオウル 中田孝監訳）